

ほすびたる

No.767

令和 5 年 7 月 20 日
福岡県病院協会

C O N T E N T S

会員広報 | 福岡県病院協会第11回定時会員総会 公益社団法人福岡県病院協会事務局 ①

声 | 病院薬剤師不足・偏在解消へ 公益社団法人福岡県病院協会 参 与 後藤 渉 ⑤
公益社団法人福岡県薬剤師会 副会長

新 人 物 | 福岡県病院協会 副会長就任のご挨拶 久留米大学病院 野村 政壽 ⑦
副会長

院長就任のご挨拶 国立病院機構九州医療センター 岩崎 浩己 ⑧
院長

病院管理 | 病院職員としての急変時対応 宗像医師会病院 医療安全管理課課長 渋田美佐子 ⑩
技術の向上にむけた取り組み 医療安全管理者認定看護管理者

オンライン資格確認義務化を 国家公務員共済組合連合会 長島 永青 ⑬
迎えて今後の利用促進に対して 浜の町病院 医事課長

看護の窓 | 組織における皮膚・排泄ケア 医療法人社団江頭会さくら病院 小深田智子 ⑭
認定看護師の役割 特任看護師長 皮膚・排泄ケア認定看護師
～地域完結型に向けた活動～

Letter | 医学・医療の歴史物語 国立病院機構九州医療センター 名譽院長 朔 元則 ⑮
～その3 無痛法と無菌法の開発～ 学校法人原学園看護専門学校 顧問

E s s a y | 人体旅行記 乳房（その十六） 国立病院機構都城医療センター 吉住 秀之 ⑳
院長

■福岡県私設病院協会 令和 5 年 5 月～6 月の動き ㉑

■福岡県病院協会だより ㉒

■編集後記 岡嶋泰一郎 ㉓

Teleradiology Service. and ASP Service.

確かな診断を、より確かなものに。
ネットワークを利用した読影サービスで、
あなたをバックアップします。



Teleradiology

～遠隔画像診断サービス～
医療に地域格差があってはならない
そう私たちは考えます。

ASP Service

～遠隔画像診断ASPサービス～
放射線科の先生方向けに、遠隔
読影システムから課金に至るまで
統合的にサービスをご提供します。

株式会社ネット・メディカルセンター

〒815-0081 福岡市南区那の川1丁目24-1
九電工福岡支店ビル6階
フリーダイヤル:0120-270614 FAX:092-533-8867
ホームページアドレス <http://www.nmed-center.co.jp/>

病院寝具・病衣・白衣・タオル及びカーテン・ベッドマットのリース・洗濯
入院セット・患者私物衣類の洗濯・紙おむつ・介護用品等の販売

福岡県私設病院協会グループ

福岡医療関連協業組合

理事長 江頭啓介

専務理事 佐田 正之
理事 原 寛
理事 陣内 重三
理事 牟田 和男

理事 津留 英智
監事 松村 順
監事 中尾 一久
事務局長 日比生英一



JQA-QMA
15863



〒811-2502 糟屋郡久山町大字山田1217-17
TEL(092)976-0500 FAX(092)976-2247

Clean & Comfortable

清潔さと快適さを追求します



福岡県病院協会 第11回定時会員総会

日時 令和5年6月27日(火) 17:00～17:30
場所 西鉄ソラリアホテル福岡 7F ルミナス
(福岡市中央区天神 2丁目 2-43)
出席会員 170名 (うち委任状提出 140名)

会員広報

◎公益社団法人福岡県病院協会事務局

■開会宣言

平祐二専務理事は、第11回定時会員総会開会を宣言。

■総会成立宣言

岡嶋泰一郎議長は、総会員数242名に対し、出席者は委任状を含め170名と会員の過半数を超えており、定款第17条に照らし総会が適法に成立していることを報告。

■会長挨拶

中村雅史会長挨拶。

■議事録署名人選出

岡嶋議長は、本日の議事録署名人として、平城守 公立八女総合病院企業長・院長と 松浦弘 済生会福岡総合病院院長を選出。

■議案審議 (岡嶋議長)

○第1号議案「令和4年事業報告について」

平専務理事から、概ね次のように報告された。

I 総務関係 ～会員数について

入会者は1会員、退会者は2会員であり、この結果、同年度末現在の会員数は244会員である。

II 総会について

令和4年6月28日に第10回定時会員総会を開催し、令和3年度事業報告などの3つの議案を審議いただき、いずれも原案どおり承認された。

また、令和5年3月28日に臨時会員総会を開催し、令和5年度事業計画など2つの議案を審議いただき、いずれも原案どおり承認された。

III 理事会について

第80回から第84回まで計5回対面で開催したほか、2回書面評決を行い、会務の執行に当たった。

(詳細は議案書に記載のとおり)

IV 「ほすびたる」関係

編集委員会を計6回開催し、奇数月20日に合計6回発刊した。

(詳細は議案書に記載のとおり)

V 研修会・県民公開医療シンポジウム関係

1 各種委員会等の開催状況

看護、リハビリテーション、医療事務研究会をそれぞれ2回、診療情報管理研究、臨床検査、医療事務、企画委員会をそれぞれ1回開催した。

また、令和年12月3日に参与・各種委員会正副委員長・役員懇談会を開催し、各研修会について意見交換を行った。

(詳細は議案書に記載のとおり)

2 各種研修会・県民公開医療シンポジウムの実施状況

次のとおりであった。

研修会一覧

月別	研修会名	開催日	会場	参加人数
8月	第165回看護研修会	R4.8.29～8.31	九州大学医学部百年講堂	148名
10月	第7回臨床検査研修会	R4.10.1	九州大学医学部百年講堂	47名
	第166回看護研修会	R4.10.3	ナースプラザ福岡	101名
	第70回栄養管理研修会	R4.10.15	WEB配信	119名
11月	第1回リハビリテーション研修会	R4.11.5	九州大学医学部百年講堂	146名
1月	第63回診療情報管理研究研修会	R5.1.28	WEB配信	144名

2月	第1回経営管理研究会	R5. 2.8	WEB配信	80名
	第122回医療事務研究会	R5. 2.15	WEB配信	44名
3月	第70回栄養管理研修会	R5. 3.11	WEB配信	44名

Ⅵ その他の事項

広島県主催で、オンラインにより四県病院協会連絡協議会が開催され意見交換したほか、「カネミ油症患者に関する治療費の支払いについての契約」を1年間更新した。
(詳細は議案書に記載のとおり)

以上、第1号議案については、全員の拍手をもって承認された。

○ 第2号議案「令和4年度収支決算について」

Ⅰ 令和4年度収支決算

伊東財務理事から、令和5年3月31日現在における貸借対照表、当期における正味財産増減計算書及び同内訳表等に基づき説明があった。なお、「貸借対照表」及び「令和4年度正味財産増減計算書内訳表」は、次のとおりである。

貸 借 対 照 表

(令和5年3月31日現在)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	4,773,547	4,759,521	15,026
普通預金	4,233,580	4,208,858	24,722
福岡銀行赤坂門支店	4,233,580	4,208,858	24,722
定期預金	500,173	500,490	0
郵便振替	40,794	50,490	-9,696
未収会費		50,000	-50,000
未収金		20,000	-20,000
広告料		20,000	-20,000
前払金	41,970		41,970
流動資産合計	4,816,517	4,829,521	-13,004
2 固定資産			
(1) 基本財産			
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	8,972,473	8,052,553	919,920
財政調整積立金	5,993,400	6,036,000	-42,600
特定資産合計	14,965,873	14,088,553	877,320
固定資産合計	14,965,873	14,088,553	877,320
資産の部合計	19,782,390	18,918,074	864,316
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	169,153	281,507	-112,354
前受金	143,600	76,600	67,000
会費	60,000	50,000	10,000
広告料	83,600	26,600	57,000
預り金	151,396	143,900	7,496
社会保険料	72,999	66,075	6,924
雇用保険料	35,457	34,635	822
源泉所得税	42,940	43,190	-250
流動負債合計	464,149	502,007	-37,858
2 固定負債			
退職給付引当金	11,693,200	11,414,800	278,400
固定負債合計	11,693,200	11,414,800	278,400
負債の部合計	12,157,349	11,916,807	240,547
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
2 一般正味財産	7,625,041	7,001,267	623,774
正味財産の部合計	7,625,041	7,001,267	623,774
負債及び正味財産合計	19,782,390	18,918,074	864,316

正味財産増減計算書内訳表（抜粋）
（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）

（単位：円）

科 目 名	公益目的事業会計				収益事業等会計				法人会計	合 計
	シンポジウム	研 修	公益共通	小 計	機関紙	研究会	収益共通	小 計		
I 一般正味財産増減の部										
1 経常収益										
(1) 経常収益										
特定資産運用益	6	11,135		11,141	1			1	3	11,145
受取入会金			5,000	5,000					5,000	10,000
受取会費			5,104,750	5,104,750			2,187,750	2,187,750	7,292,500	14,585,000
事業収益		4,326,500		4,326,500	1,109,500	500,500		1,610,000		5,936,500
受取補助金等	625,000	1,875,000	350,000	2,850,000	2,888,000	722,000	150,000	3,760,000	500,000	7,110,000
雑収益									51	51
経常収益計	625,000	6,212,635	5,459,750	12,297,391	3,997,501	1,222,500	2,337,750	7,557,751	7,797,554	27,652,696
(2) 経常費用										
事業費	3,476,373	12,228,271		15,704,644	5,212,823	1,228,664		6,441,487		22,146,131
管理費									4,118,698	4,790,111
経常費用計	3,476,373	12,228,271		15,704,644	5,212,823	1,228,664		6,441,487	4,118,698	26,936,242
特定資産評価損益等		-42,680		-42,680						-42,680
当期経常増減額	-2,851,367	-6,068,316	5,459,750	-3,449,933	-1,215,322	-6,164	2,337,750	1,936,348	1,116,264	673,774
2 経常外増減の部										
(1) 経常外収益										
(2) 経常外費用										
特定資産売却損										
退職給付引当金減額										
経常外費用計										
当期経常外増減額		0		0	0	0		0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	-2,851,367	-6,058,316	5,459,750	-3,449,933	-1,215,322	-6,164	2,337,750	1,116,264	3,007,443	673,774
法人税、住民税及び事業税									50,000	50,000
当期一般正味財産増減額	-2,851,367	-6,058,316	5,459,750	-3,449,933	-1,215,322	-6,164	2,337,750	1,116,264	2,957,443	623,774
一般正味財産期首残高	-24,946,820	-36,755,341	42,236,553	-19,465,608	-20,163,737	9,169,446	14,462,033	3,467,742	22,999,133	7,001,267
一般正味財産期末残高	-27,798,187	-42,813,657	47,696,303	-22,915,541	-21,379,069	9,163,282	16,799,783	4,584,006	25,956,576	7,625,041
II 指定正味財産増減の部										
III 正味財産期末残高	-27,798,187	-42,813,657	47,696,303	-22,915,541	-21,379,069	9,163,282	16,799,783	4,584,006	25,956,576	7,625,041

II 監査報告

野村監事から、当期の計算書類が適正に処理されており事業報告も適正である旨の監査報告が行われた。

以上、第2号議案については、全員の拍手をもって承認された。

○ 第3号議案「理事の補充選任について」

平専務理事は、志波副会長及び桑野、森田理事が3月末をもって理事を退任したことに伴い、理事3名を補充選任するため、5月26日付で、全会員あてに立候補届及び推薦届の提出を依頼したところ、締切日の6月9日ま

でに、第3号議案に記載の3名が立候補されたことを説明した。なお、本総会において選任された場合、任期は、本日の総会終了後から令和6年度の定時会員総会の終結時までとなる旨を補足した。

岡嶋議長は、本議案について質疑等を求めたが、特に質疑や異議の申し出等なかったため、選任手続きに入った。議長は、定款17条第3項の規定に基づき、「理事を選任する議案を決議するに際しては、候補者ごとに行わなければならない」ことを説明のうえ一人ずつ決議する旨を述べ、候補者ごとに賛成者の拍手を求めたところ、3名の理事候補者全員が、過半数を超える拍手により選任された。

新 任 理 事

氏 名	所属病院及び役職
岩崎 浩己	国立病院機構 九州医療センター 院長
谷口 雅彦	社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院 病院長
野村 政壽	久留米大学病院 病院長

(任期: 令和5年6月27日から令和6年度定時会員総会終結時まで)

○ 第4号議案「参与の委嘱について」

平専務理事は、現在の参与については2年間の任期がこの6月末で終了するため、新たな参与の推薦を各団体をお願いしたところ、第4号議案にある方々が推薦されたと報告した。なお、任期は、来月から2年間

となることを補足した。

議長は、本議案について質疑等を求めたが、特に質疑や異議の申し出等は無かったため、議場に諮ったところ、過半数を超える拍手をもって承認可決された。

委 嘱 す る 参 与

団 体 名	役 職 名	氏 名	備考
福岡県医師会	会長	蓮澤 浩明	再任
福岡県看護協会	会長	大和 日美子	再任
福岡県薬剤師会	副会長	後藤 渉	新任
福岡県歯科医師会	会長	江里 能成	新任
福岡銀行	地域共創部長	山内 徳一	再任
西日本シティ銀行	執行役員法人ソリューション部長	上原 洋介	再任
福岡県弁護士会	弁護士	井上 正義	再任
日本公認会計士協会北部九州会	公認会計士	中西 裕二	再任
西日本新聞社	社会部 編集委員	下崎 千加	新任

(委嘱期間: 令和7年6月30日まで)

■ 議案審議終了

岡嶋議長の議案審議終了宣言。

■ 総会終了

平専務理事から、議長に対する謝辞と閉会を開催する旨が述べられ、第11回定時会員総会は滞りなく終了した。

■ 臨時理事会

副会長の選任を行うため、総会終了後直ちに、新役員による臨時理事会を開催した(理事総数25名中、出席理事20名。出席監事2名)。

中村雅史会長が議長となり、本理事会は定款第32条第1項に定める定足数を満たしており、適法に成立していることを告げ、議題の審議に入った。

○ 議題1「副会長(1名)の選任について」

審議の結果、野村政壽理事が副会長に選任された。

○ 議題2「各種委員会担当理事の選定について」

審議の結果、壁村哲平理事が病院委員会担当理事に、岩崎浩己理事が診療情報管理研究会担当理事に、また、谷口雅彦理事が臨床検査委員会担当理事に選定された。



病院薬剤師不足・偏在解消へ

公益社団法人福岡県病院協会 参 与 後 藤 渉
公益社団法人福岡県薬剤師会 副会長

令和3年6月に公表された「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会とりまとめ」では、薬剤師が将来的に過剰になると予想される一方で薬剤師の従事先の偏在や地域偏在があり、特に病院薬剤師の確保が喫緊の課題であることが指摘されているところです。

来年度からスタートする第8次医療計画の作成指針に薬剤師確保策が盛り込まれたことから、このたび厚生労働省は6月9日付で、都道府県が薬剤師確保の取り組みを推進できるよう薬剤師確保計画ガイドラインを公表しました。医療計画の計画期間は6年間とされていますが、薬剤師の偏在状況の変化を踏まえ、計画を見直す機会を設ける観点から、薬剤師確保計画の計画期間は原則3年間とし、2036年までに薬剤師の偏在是正を達成することを長期的な目標としています。各都道府県は、ガイドラインで示す薬剤師確保計画の考え方や構造を参考に、地域の実情に応じた実効性のある計画を策定することになります。

また今回、厚労省は本ガイドライン公表と同時に都道府県と2次医療圏における薬剤師少数区域・薬剤師多数区域を公表しており、現在と目標年次である2036年度の偏在指標を算定しています。

偏在指標は、その地域の薬剤師数と労働時

間を掛け合わせた「調整薬剤師労働時間」を「薬剤師の推計業務量」で割った値として算出され、需要と供給のバランスがとれている1.0を目標とし、偏在指標が小さいほど不足している実態を表しているとしています。今回示された病院薬剤師の全都道府県ベースの偏在指標は0.80で、目標とする1.0を超える都道府県はありませんでした。福岡県は0.93と都道府県別では京都府、東京都、徳島県に次いで偏在指標が高いものの、2次医療圏ごとに算出された指標をみると県内13区域のうち6区域で偏在指標0.73以下の薬剤師少数区域となっています。

また各都道府県の薬剤師数が現在の薬剤師数と同じ割合で増加すると仮定して算出した2036年時点の偏在指標も公表されています。福岡県においては0.92と全く変化が見られていませんが、薬剤師少数区域は5区域に減少するとされています。

これまでも病院薬剤師の“不足感”は叫ばれていましたが、どこにどれだけ足りないのか、どれだけいけば良いのか数値化されていませんでした。今回、偏在指標が明らかになった点は非常に大きいと思います。

いずれにしても今後福岡県においても、薬剤師偏在指標に基づく薬剤師確保の方針、確保すべき薬剤師数、目標の達成に向けた施策

という一連の方策について、3年おきの短期的な計画と2036年までの長期的な計画を策定し、薬剤師偏在是正の達成を目指すこととなります。

令和4年度の入院・外来医療等における実態調査において、医師の負担軽減策についての回答の中で上位5項目のうち、以下の3項目、① 薬剤師による投薬に係る患者への説明、② 薬剤師による患者の服薬状況、副作用等に関する情報収集と医師への情報提供、③ 薬剤師による処方提案または服薬計画等の提案が上位に挙げられており、負担軽減策として「薬剤師の更なる活用」が目立つ結果となっています。病院によっては事務部門に薬剤師を配置し、薬剤師が病院の管理業務を担っているところもあり、経営面における薬

剤師の関わりも期待されています。また病院の収益面では特に薬剤費の占める比率が高く、適切な薬剤管理を行っていく上でも薬剤師のマンパワーが必要と言えます。

これまで病院薬剤師については議論されることは少なかったように思いますが、病棟業務を展開しようとしても薬剤師不足のため実施できないなど、昨今の病院薬剤師不足の現状を病院側も強く認識するようになってきました。病院薬剤師として就職する人が減少している中で、危機的な状況を迎えつつあります。薬剤師確保を地方行政がどこまで真剣に考えるかが大きなポイントと言えます。行政も一緒になって取り組める体制、雰囲気作りが重要だと考えております。

医療・福祉、介護など全ての医療環境をサポートします

サービス内容

- ・医療機器、医療器具、医療消耗品の販売
- ・病院給食に関連した業務用食材及び厨房機器等の販売
- ・病院、介護施設に関する工事及び物品の販売
- ・臨床検査・水質検査・検便検査から食中毒検査などの検査
- ・看板、チラシ、インターネット等を利用した広告作製

これまで培ったノウハウを生かし、開業前の構想～開業後の施設経営まで九州・沖縄の医療機関、介護施設などの経営を全力でサポートいたします。

有限会社 DMS

(ドリーム・メディカル・サービス)

〒810-0005 福岡県福岡市中央区清川3丁目14番20号3F
TEL:092-525-7666・7667 FAX:092-525-7668

福岡県精神科病院協同組合

〒810-0005 福岡県福岡市中央区清川3丁目14番20号2F
TEL:092-521-0690 FAX:092-524-4632

福岡県病院協会 副会長就任のご挨拶

久留米大学病院
病院長 野村 政壽



今年6月より、前任の志波直人先生の後任として、福岡県病院協会副会長を拝命いたしました久留米大学病院長の野村政壽と申します。皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。

福岡県病院協会は1950年（昭和25年）に全国に先駆けて設立され、2013年からは公益社団法人として、医療従事者への専門知識・技術研修、病院の経営基盤安定化に資する研修等を通じて、福岡県民の健康増進に寄与してきました。3年余り続いた新型コロナウイルス感染症も5類へ移行し、平時を取り戻しつつありますが、一方で、地域医療構想、医師偏在、働き方改革の三位一体の医療制度改革がスピード感を持って進められています。2024年4月からは法規制を伴った働き方改革が始まり、1874年（明治7年）に医制が敷かれ、医師免許が発行されてから初めて、医師の労働時間が制限されることになります。私たちは歴史的分岐点に立っているのかも知れません。地域医療の将来を見据え、患者、市民と医療が一体となった持続可能な医療提供体制を実現するためには、福岡県の地域それぞれの事情を踏まえた医療制度改革が望まれ、その意味から本協会が果たす役割は極めて大きいと考えられます。このような時代の転換点に本協会の副会長を務めることは身に余る光栄であるとともに、その重責を痛感しているところです。

私は1988年（昭和63年）に九州大学医学部を卒業し、同第三内科に入局、国立別府病

院（現、別府医療センター）での研修の後、九州大学大学院、ハーバード大学への留学を経て、1999年に帰学、その後も一貫して内分泌代謝・糖尿病領域の臨床と研究に携わって参りました。2017年に久留米大学医学部内科学講座内分泌代謝内科部門の主任教授を拝命し、2020年からは久留米大学病院副院長として医療情報、臨床研究、医療倫理を担当し、病院運営に携わる機会を頂きました。そして本年4月から同病院長を拝命しています。副院長を務めていた3年間は新型コロナウイルスパンデミック下にあり、病院執行部の一員として、様々な対応を行ってきました。パンデミックを経験し、病院としての機能を維持するためには、多職種間の理解と協力、行政、地域の医療機関との連携、協力体制の構築が不可欠であること、そのためにはリスクコミュニケーションが重要であることを学ばせていただきました。

我々のレジリエンスを信じ、新たなリスクに備えるとともに、「人が主役」の医療制度改革を進めて参りたいと思います。医師が働きやすく、学びやすい環境で、心身ともに健康であることは、持続可能な医療提供体制の構築には不可欠です。本協会活動を通じて、働き方改革と同時に、医療安全、医療の質の向上にも貢献できればと思います。中村雅史会長を支え、福岡県の医療の発展に尽力して参る所存です。皆様からのご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

院長就任のご挨拶

国立病院機構九州医療センター

院長 岩崎 浩己



機関誌「ほすびたる」ご愛読の皆さま、平素より九州医療センターの運営にご支援を賜り心より御礼申し上げます。2023年4月より院長を拝命しました岩崎浩己いわさきひろみと申します。自己紹介を兼ねまして拙文を寄せさせていただきます。

私は学生時代、ラグビーというスポーツを通じて多くの仲間に恵まれ、6年生最後の九州山口医科学学生体育大会で優勝できたことが最高の思い出です。1990年に九州大学を卒業し、血液内科医を目指しました。急性白血病など短期間で生命を脅かす重篤な状態となる患者さんを診療しますので、内科のなかではかなりハードな診療科だと思います。患者さんと一緒に病気と闘って、つらい治療を乗り越えた先には、治癒というこの上ないご褒美が待っている。こんな素晴らしい体験を重ねていけることが血液内科の醍醐味だと思っています。2000年から5年間の米国留学とその後11年間の大学勤務を経て、2016年4月に九州医療センターに入職し8年目の今、院長という大きな仕事をいただき身の引き締まる思いであります。福岡市は少子高齢化のなかでも成長し続けている全国でも希有な都市です。この元気な街「ふくおか」を医療の面で支え、地域の皆さまに安心をお届けすることが九州医療センターの役割と考えています。

九州医療センターが特に意識して取り組む必要のあるSDGs（Sustainable Development

Goals）について考えてみたいと思います。

「すべての人に健康と福祉を」というゴールは、私たち国立病院機構が担うべき医療に直結します。民間ではアプローチ困難なセーフティネット系医療分野（筋ジストロフィー、重症心身障害、結核、心神喪失者等医療観察法に基づく医療など）や新興感染症を含む災害医療を守り続けることはもちろんですが、当院のように高度急性期医療と救急医療を提供することで地域の人びとの健康を支える続けることも国立病院機構の大切な使命です。質の高い急性期医療を実践するためには、設備投資と人材確保が不可欠です。例えば外科医にとって、ロボット手術を実施できる環境が整っていることが病院選びの大きな要素となっています。患者さんにとっても低侵襲の手術を受けられる医療機関に魅力を感じられるでしょう。健全経営のもとで実現される設備投資（da Vinci、ハイブリッド手術室、強度変調放射線治療など）が有能な医療人を呼び込み、さらに患者さんに選ばれる病院へと成長することに繋がります。このような良い循環を維持することが九州医療センターのSDGsの一丁目一番地と考えています。「パートナーシップで目標を達成しよう」というゴールは、地域医療連携の強化と人材交流に落とし込むことができると思います。約880の連携医療機関のみなさまと顔の見える信頼関係を維持しながら地域に暮らす人びとの健康を守りたいと思います。また、国立病院機

構内外のやる気に満ちた医療人が互いに交流し合うことで、医療界全体の持続的なレベルアップが加速するものと期待されます。「働きがいも経済成長も」というゴールでは、働き方改革への取り組みと人材育成・キャリアアップが重要となります。適切なワークライフバランスを保って働きがいのある職場環境を整えるために、タスクシェア・タスクシフトを進めながら超過勤務の削減に努めなければなりません。また、ライフイベントを迎え

る女性や障害者にやさしい多様な勤務環境を準備することにも積極的に取り組まねばなりません。初期研修医や専攻医を含む若い医療人には学ぶべきことが山ほどあります。労働と自己研鑽の考え方を明確にして、働き方改革との整合性を保持しつつ充実した学習環境を提供することは九州医療センターに課せられた責務と考えています。地域に求められる持続可能な高度急性期病院として、しっかりと取り組んで行く所存です。



国立病院機構九州医療センター外観



病院職員としての 急変時対応技術の向上にむけた取り組み

宗像医師会病院 医療安全管理課課長
医療安全管理者
認定看護管理者

渋田 美佐子

はじめに

当院は宗像地区にある 164 床の一般急性期病床を中心とした医療機関で、職員数は 2023 年 4 月時点で約 340 名です。私は 2018 年度より専従の医療安全管理者に着任し、院内における医療安全管理体制の構築に向け、微力ながら日々取り組んでいます。

着任当初において当院では、全職員を対象とした ALS・BLS 研修をそれぞれ年 1 回で実施していましたが、参加率も低く職種別に見ても看護師以外の参加が少ない状況でした。また実際の場面を想定した模擬訓練も実施されておらず、“医療機関でありながら職員は院内における急変時の初期対応ができるのか？”と不安になり、2019 年度より研修や訓練プログラムの見直しを図りました。その結果 2022 年度末には課題は残るものの、職員の急変時対応技術や意識の向上を認めたため、その取り組みをご紹介します。

1 救急委員会を中心に活動開始

2018 年度に実施した緊急時召集訓練（以下、ハリーコール訓練とする）の様子から、医師・看護師以外の職種は業務内で急変の場面に遭遇する頻度が少ないため、必要性の認識が低く急変に遭遇した場合には、「とりあえず誰か呼べばいい」との考えが垣間見えました。この反省を元に、2019 年度より“病院職員として誰も

が急変時初期対応を速やかに行えること”を目標に、救急委員会を中心として研修や訓練プログラムの検討・実施・評価・指導などに取りかかりました。後になって思えば、救急委員会は医師・看護師・薬剤師・放射線技師・事務職員等の多職種で構成されており、それぞれの職種の意見も反映しながら取り組めたことも大きなメリットだったと考えます。

2 研修と訓練の工夫

COVID-19 の蔓延に伴い、集合研修や実技訓練の実施・外部講師への依頼等が難しくなり、中止した研修もありましたが講義形式の研修については DVD の上映や、回覧視聴とするなどで受講者数を増やしました。その他、主な研修・訓練については以下で述べます。

ハリーコール訓練の定例化

ハリーコール訓練：院内において患者や職員が倒れていると想定し、人形を使用して発見→ハリーコール放送→蘇生処置（BLS/ALS）→移送・収容まで一連の対応を行う模擬訓練。全職員を対象とし、実施日・時間帯のみ事前に公表する。所要時間は約15分程度。

ハリーコール訓練は 2018 年度より年 1 回の定例化としました。単に実施するのみではなくなんらかの評価指標となるものが必要と考え、急変時の対応手順からチェックリストを作成し、① すぐに応援を依頼できたか（時間も測定）② 発見からハリーコールを依頼し終える

までの時間 ③ 反応を確認し胸骨圧迫を開始できたか……等など、13 項目をチェックし評価をすることにしました。このチェックリストを使用することで、対応時の正しい流れを意識することができ、さらには職員へのフィードバックもしやすくなりました。また主観による評価を避け、急変時対応の経験が少ない職種の救急委員も評価することが可能となりました。

急変時対応訓練の開始

急変時対応訓練：1回に一つの部署（3～4名）を対象とし、院内で患者・職員などが倒れたと想定して発見→ハリーコールの依頼→蘇生処置（BLS）を行う初期対応を中心とした模擬訓練。実施予定日や時間帯、部署などは非公

表。所要時間は約7分程度。

年1回のハリーコール訓練だけでは、どうしても一部の医師・看護師以外は傍観者となりやすい傾向が見受けられます。主に診療技術部や事務職員において、積極的に蘇生処置へ参加してもらうため、2021 年度からハリーコール訓練よりも小規模で実施する「急変時対応訓練」を開始しました。評価は救急委員が実際の訓練場面を見てチェックリスト(表1)を元に行い、訓練後にはチェックリストから点数化した総合得点を算出します。

ALS・BLS 研修の工夫

ALS・BLS 研修は例年全職員を対象に実施していましたが、2021 年度より職種の違いに

表1 急変時対応訓練チェックリスト

急変時対応 訓練		委員は太枠内を記入		事務部 A 部署	
人形を置いて、「スタート」		第一発見者は駆け寄る		評価	点数
① 反応を見る	声かけ・肩をたたく	◎・×			10
② 周囲の人を集める	「誰か来て下さい」と大きな声で言える	◎・×			10
③ 来た人に「AED」と「ハリーコール」を依頼する		◎・×		注) HCは「依頼まで」とし放送はしない	10
④ 気道を確保する（頭部を後屈する）		○・⊗			0
⑤ 呼吸・脈拍を確認後 胸骨圧迫を開始する		○・⊗	↓	発見から（約 60）秒で開始	※ -30
⑥ 確実な胸骨圧迫ができる	部位・5センチ凹む .100 回 / 分	◎・×			10
⑦ AED が到着しそのまま速やかに実施できる		◎・×	↓	発見から（2 分 27）秒で AED を実施	10
⑧ 発見者は到着した医師役に状況を報告できる（医師役が AED 後到着）		◎・×			10
⑨ 2 人以上で交代しながら胸骨圧迫ができる		○・⊗		積極的に自分から交替を申し出る	0
⑩ 特記事項		特記事項			10
※①～⑥⑧は「発見者」が実施する		・「看護師さん！」と呼んで来るまで待っている × ・速やかにハリーコールの依頼ができた ○ ・声かけ、周囲の協力は ○ （自ら集まり手伝う姿勢あり） ・医師役への報告はできたが ○ その間胸骨圧迫をしていない × ・一人が胸骨圧迫をし続けていた × ・AED を依頼はしなかったが、応援者が取りにいき実施 ○ ・気道確保、呼吸、脈拍の確認なく胸骨圧迫開始 ×			70-30 点
					合計 40/100 点

※⑤点数 → 30 秒以内：減点なし
31 秒以降：かかった秒数－30 秒 分を減点
※⑩点数 → 一つでも○があれば加点 10 点 （2021.3 作成）

着目し医師・看護師には ALS 研修を、その他の診療技術部および事務職員・看護補助者には BLS 研修と対象職種を分けて企画・実施しました。しかし感染予防の観点から実技研修が難しい状況となり、ALS 研修については講義が中心となりました。一方 BLS 研修については、意識及び技術の向上のため少人数でかつ複数回に分けて実技研修を実施しました。それが逆に参加者からは「少人数でわかりやすい」と好評を得ることになり、「1 年に数回は受けたい」「参加して自信がついてきた」などの肯定的な意見が多くなりました。



事務職員・看護補助者による実技研修の様子

3 結果・評価

訓練時においてより確実な評価を行うため、2021 年度より動画撮影を取り入れました。このことで評価者（救急委員）の負担を減らし、いずれの模擬訓練でも 1～2 名での評価が可能となりました。評価結果については当該部署へのフィードバックはもちろん、救急委員会や医

療安全管理委員会でも共有しながら、その都度課題を明確にします。また、年間目標として急変時対応訓練の取得点数の目標値を設定していました。

2021 年度は 5 部署の急変時対応訓練を実施しましたが、年間の平均点数は 100 点満点中 16 点と残念な結果でした。しかし 2022 年度には 4 部署で実施し、年間の平均点数が 72 点と目標としていた点数を大きく上回りました。中でも事務部の部署における得点が大幅に伸び、看護部の部署よりも高得点を出してしまうほどになりました。

まとめ

2021 年度から実施した急変時対応訓練は全部署に実施したものではないため、病院職員全体の意識や技術を表している訳ではありません。しかし実技研修や模擬訓練は、病院という場所で働く職員の急変時対応技術や意識の向上にも有効であることが確認できました。

また、目標値（取得点数）の設定やチェックリストの作成、評価のフィードバックを行ったこともいわゆる「動機づけ」となり、具体的な学習計画を元に自発的に訓練を行う部署も出てきました。これも結果的に意識や技術の向上をもたらした大きな要因だと思います。

現在の急変時初期対応の課題として AED の操作ができなかったり、初めから傍観者だったり等と多々ありますが、引き続き救急委員会を中心に活動を継続し、職員全体の急変時対応技術の向上に向け取り組んでいきたいと思っています。

オンライン資格確認義務化を迎えて 今後の利用促進に対して

国家公務員共済組合連合会
浜の町病院 医事課長

ながしま えいせい
長島 永青

令和5年4月からオンライン資格確認端末の設置運用の義務化を迎えました。当院では運用開始後1年半が経過したところです。皆さまの医療機関では、機器の設置から運用など、どのように対応されていますでしょうか？

現在では、オンライン資格確認端末を利用した機能追加も順次進んできており、ご本人の同意のもとではありますが、特定健診・薬剤・診療情報などが閲覧できるようになっています。そして、各医療機関、調剤薬局、システムベンダー等が悩ましく対応を協議しているであろう（既に導入のところもありますが…）「電子処方箋」の機能が新たに進んでいるところです。システム的な機能追加については、ベンダーさんにお任せすることとしますが、課題として、医師にHPKIカードの申請取得をしてもらうことや、「現状で当院だけが機能を持っても意味がないのではないか」と思い、なかなか対応が進んでいないという現状があり、調剤薬局等と地域レベルで進めて行くことも必要だと感じている中で、関係者間で意見交換を行っているところです。実際には、今年度中に機能設置を行うこととなりそうですが、医事課として受付時などの運用に際して、様々な課題があると考えています。当院の外来患者さんは1日約800人ですが、今後多くの患者さんが利用することになれば、現在の3台（1台は救急外来に設置のため実質2台）のカードリーダー機では不足するため増設が必要になるのではないかと

その費用は誰が負担するのか、また、その使い方や患者同意の説明のために職員配置が必要となるのではないかと。さらに、これまでの機能利用に関しては、マイナンバーカードが必要で、端末にカードをかざして利用してもらうことが前提でしたが、「電子処方箋」を希望する患者さんは、マイナンバーカードを持参しなくとも、保険証で受診した場合にも発行を希望できることが、運用面において悩ましい要因となっており、外来患者さんの受付業務の見直しを行わざるを得ない状況となっています。今後、医師会会員医療機関の医事課の皆さまにもご意見をお伺いできればと思っています。

また、現在報道でも大きく取り上げられている「マイナンバーの情報連携に誤りがある」という問題ですが、政府でマイナンバー情報総点検本部が設置され、令和5年6月21日には第1回会議が開催されています。その中で、住民票等の発行に際して、年金、保険証、パスポートなどとの情報連携がうまくいかない問題や、誤登録の問題が提起されており、河野大臣も「秋を目途に総点検を行うが、必要であればお尻ありきではなく、しっかりやることを優先させなければならない」と語られていました。医療機関としては、来年秋に保険証の廃止が迫っている状況であり、引き続きこの会議にも注視し、受診する患者さんのためにもしっかりと対応を行っていきたいと考えています。

看護 の窓

組織における皮膚・排泄ケア 認定看護師の役割 ～地域完結型に向けた活動～

医療法人社団江頭会さくら病院
特任看護師長 皮膚・排泄ケア認定看護師

こぶかた
小深田 智子

1 はじめに

看護師長として約3年間の病棟管理の経験を経て、令和4年3月より特任看護師長として皮膚・排泄ケア認定看護師業務に特化したポジションで活動を始めました。

地域包括ケアシステムの構築が進められる中、「治す医療」から「治し支える医療」が求められる時代へと変化しました。複数疾病を抱える高齢者が増加するなど疾病構造は変化し、医療と介護の両方のニーズを併せ持つ療養者が増加しています。このように医療環境が変化していく中、認定看護師に期待される役割も変化してきました。自施設の看護実践及びケアの質向上に寄与することはもちろんですが、地域全体のケアの質向上に向けた活動が期待され、認定看護師制度再構築においても特定行為を含む更なる役割拡大が求められるようになりました。これからの社会ニーズに応え、あらゆる場で水準の高い看護を提供できることが課題となります。

当院は地域包括ケアシステムの中核病院として入院から在宅までシームレスな医療を提供する役割を担っています。専門性に特化したポジションで、自施設における皮膚・排泄ケア認定看護師の役割を模索し、取り組んできた約1年間の活動について報告致します。

2 施設概要

当院は急性期内科病棟・地域包括ケア病棟・障害者施設一般病棟・緩和ケア病棟からなる152床のケアミックス病院です。「愛の心と確かな医療技術を以って社会に奉仕する」という病院理念をもとに地域の方々が安心して暮らせるよう、在宅医療を含めた様々な医療サービスを提供しています。在宅部門では、在宅医療介護センターと訪問看護ステーション、住宅型有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅を併設しています。在宅・施設では介護度や医療依存度が高い方も多く、訪問診療・訪問看護で地域医療を支えています。現在は3棟目となる複合機能型高齢者住宅の建設が進められています。

3 院内活動

当院の患者層は平均年齢74.8歳で、日常生活自立度Bレベル以上が約7割を占めています。その中で創傷関連（外傷・高齢者四肢外傷性創傷・医療関連機器圧迫創傷・癌性創傷・熱傷）や褥瘡、失禁関連皮膚炎、ストーマ・瘻孔ケアなど皮膚・排泄ケア領域のケアを必要とする患者が多く、多岐にわたります。そこで、院内の専門領域におけるケアの質向上を目指す活動として、主に1)病棟ラウンドにおける専門的な看護実践とスタッフ教育、2)多職種協働に

による褥瘡対策、3)フットケア専門外来での取り組みを行いました。運用開始前に皮膚・排泄ケア認定看護師業務内容と活動計画書を作成し、医局・看護部へ説明を行いました。必要時、看護管理者会議で提案し、運用を進めています。

1) 病棟ラウンド

～看護実践力の向上～

病棟毎に曜日を決めてラウンドを実施、皮膚・排泄ケア領域の患者の処置やケアをスタッフと共にしています。OJTで皮膚の観察や洗浄方法、創部観察の視点、ドレッシング材管理方法やストーマ・瘻孔ケアなどを指導し、継続的に介入しています。処置やケアをスタッフと共に行い、教育的に介入することで、個々のスキルアップに繋がり、ケアの標準化が図れています。また、傷の治癒や改善していく過程を経験することにより、スタッフのモチベーション向上に繋がっています。ラウンド日以外でもコンサルテーションがあれば、その都度対応しています。

2) 褥瘡対策

～多職種協働による取り組み～

褥瘡管理者として、院内の褥瘡対策を行っています。主に褥瘡対策委員会の運営とリンクナースの教育、褥瘡回診などです。褥瘡回診は、多職種で構成されるチームで、褥瘡保有者の治療とハイリスク患者の予防ラウンドを週に1回行っています。

標準的な予防ケアは実践できていましたが、拘縮や羸瘦著明の方が多く、個体要因の強い患者の褥瘡発生が続いていました。このような患者へのアプローチとして、効果的な外力除去が必要になります。そこで、ポジショニングの専門であるリハビリテーション科に協力を求め、褥瘡対策チームと協働で、個々の体圧測定を行

い個別性に応じたポジショニングを検討するシステムを構築しました。その結果、褥瘡発生は減少し、褥瘡対策委員会メンバーを始め、リハビリテーション科や病棟スタッフの士気は高まりました。成果を実感できたことで、次の課題に取り組む意欲がみられ、現在は褥瘡対策における地域連携や高齢者の予防的スキンケアに取り組んでいます。褥瘡対策はチーム医療です。それぞれの専門職を繋ぐ、チーム医療のキーパーソンとしての役割を担っていきたいと思います。

3) フットケア外来

～フットケアの拡充に向けて～

糖尿病足病変予防のためのフットケア外来を週に1回行っています。糖尿病足病変の予防には、良好な血糖コントロールや足の手入れが大切であり、生活状況や自己管理状況が影響します。フットケア外来では、主に足の観察と爪切り、胼胝・鶏眼処置やセルフケア指導など予防に重点をおいた処置やケアを行っています。わが国においても、高齢化と糖尿病患者の増加に伴い、フットケアの重要性がいっそう増えています。糖尿病が重要な健康問題となってきた一方で、足病変の悪化から足壊疽に陥り、下肢切断を余技なくされることも少なくありません。実際に外来や入院患者の中にもフットケアを必要とする患者は多く、フットケア外来の必要性を痛感しています。肥厚爪や胼胝・鶏眼などは足病変のリスクが高まるため、適切なケアが必要です。そこでフットケア機器を導入し、幅広い症状に対応できるようにしました。現在は対応できるスタッフや時間が限られていますが、外来スタッフとの連携を強化し、潜在患者をフットケア外来に繋げていけるよう計画中です。糖尿病重症化予防の一環として、フットケア外来の拡充を目指しています。

4 院外活動

認定看護師は、院内だけではなく地域医療の水準をあげるリソースとしての役割を担う必要があります。在宅医療推進の観点から、診療報酬においても、医療機関等の専門性の高い看護師（ストーマ・褥瘡・癌対象）による同一日同行訪問（在宅患者訪問看護・指導料3）にて評価されています。

訪問看護ステーション利用者の中には、褥瘡やストーマを始め、皮膚・排泄ケア領域の支援ニーズが高く、介入の必要性を感じていました。そこで、当院併設の訪問看護ステーションと介護施設を対象に、訪問看護師と同一日同行訪問を開始し、「専門性の高い看護師の同一日同行訪問（在宅患者訪問看護・指導料3）」を算定しています。

1) 専門性の高い看護師の同一日同行訪問 ～訪問看護ステーションとの連携～

診療報酬上対象となる「真皮を超える褥瘡」と「管理困難なストーマ」に対して、訪問看護師から依頼を受け、同行訪問を行っています。月1回の算定になりますが、訪問日や訪問回数は症状や状態に応じて訪問看護師と相談して実施しています。在宅では病院と異なり、限られた人・資源でのケアが求められます。訪問看護師へ専門的な知識や技術指導を行うとともに、利用者へ生活を基盤とした個別性のあるケアを提供しています。

2) 施設訪問 ～褥瘡対策体制整備に向けて～

併設の住宅型有料老人ホームは要介護4以上で介護度・医療依存度が高い入居者がほとんどです。1)と同様、褥瘡とストーマに関しては、

「在宅患者訪問看護・指導料3」で対応しています。入居者は、活動性低下・皮膚脆弱など褥瘡発生リスクの高い方が多く、予防ケアが必要な状況です。施設では、病院と違い対応する看護師は少なく、介護福祉士やヘルパーが中心となってケアを行っています。看護ケアにも限界があり、褥瘡発生も否めませんでした。しかし、これからの超高齢化社会では、地域施設や在宅で療養生活を送る高齢者がさらに増えると同時に、褥瘡の発生リスクは高まり、褥瘡治療の場は在宅や施設が中心となってくることが考えられます。職種により医療や看護ケアの知識・技術に差がある中で、それぞれが役割を担い、ケアを実践していく必要があります。今後、褥瘡予防対策の必要性について施設職員と共有し、意識改革とともに体制整備に向けて取り組んでいく予定です。

5 医師とのタスク・シフト / シェア

国におけるタスク・シフト / シェア推進の流れは、医師の働き方改革を目的とされていますが、看護協会では、その流れの中で看護師が専門性を更に発揮し、患者中心のより質の高い医療を提供できるようになるための契機だと考えられています。看護師が専門性を発揮し、患者の状態やその変化に応じて判断・対応できるよう医師とのタスク・シフト / シェアに取り組むことを推奨しています。

私は、院内から地域までの皮膚・排泄ケア領域のケアを一貫して担い、介入しています。治療やケアに関しては、適宜主治医と相談し実践しています。包括的にケアを実践することにより、医師の業務の効率化と看護の更なる専門性の発揮に繋がり、看護の質の担保と患者の利益に繋がるものと考えます。

6 今後の課題

院内から地域へ組織横断的に活動することにより、院内・院外での皮膚・排泄ケア認定看護師の役割について再認識することができました。これからは急性期医療から在宅医療のあら

ゆる場で医療ニーズのある人々とその家族を支援することが求められます。地域包括ケアシステムを支えるためには多職種協働が欠かせません。院内外において、認定看護師として専門性を発揮するとともに、地域へ向けて更に活動の場を広げ、チーム医療のキーパーソンとしての役割を担っていきたいと考えています。



さくら病院外観



病院外観看板

医学・医療の歴史物語 ～その3 無痛法と無菌法の開発～

国立病院機構九州医療センター 名誉院長 朔 元 則
学校法人原学園看護専門学校 顧問

地獄の拷問からの脱出

パレ（Ambroise Paré, 1510～1590）によって近代外科学の礎が築かれたとは言え、19世紀に入って無痛法（麻酔）が開発されるまでは、外科治療は激痛との格闘であった。手術に際しては、患者を大量の飲酒で酩酊状態にした上、鐘（オペレーション・ベル）を鳴らして患者押さえ付け役の屈強な男達を呼び集めていたということである。ノーベル賞作家バーナード・ショーは「酒は人生という手術に耐えるための麻酔薬だ…」と述べているが、残念ながら酒は本物の手術に対しては効果が薄く、外科手術即ち地獄の拷問という時代が18世紀末まで続いていたのである。

全身麻酔下の外科手術に世界で初めて成功したのは華岡青洲（1760～1835）である。華岡青洲は紀伊国（現在の和歌山県）の漢方医の子息で、京都でカスパル流外科を学んだ所謂漢蘭折衷医（オランダ医学の知識を身につけていた漢方医）の一人である。カスパル流外科とは、オランダ商館医として1649年に来日したシャムベルゲル（Caspar Schamberger, 1623～1706）が、約1年間の滞在中に長崎と江戸（商館長の将軍謁見に随行して江戸にも長期滞在した）で伝えた西洋流外科医術のことである。

青洲は曼荼羅華（チョウセンアサガオ）とトリカブトを主成分とする通仙散（別名麻沸散）という内服薬を開発し、1804年11月14日（文化元年10月13日）、60歳の乳癌患者の無痛手術に成功したのである。後述のガス麻酔下の手術成功に先駆けること約40年、世界初の快挙であった。しかし通仙散は生薬であるため効果がかかなり不安定であり、またその処方の実際は青洲の門下生の中だけで一子相伝の秘薬として伝えられたため、世界に広く普及することはな

かった。

和歌山県出身の小説家有吉佐和子（1931～1984）は、通仙散開発に関する青洲の妻と母の葛藤を、「華岡青洲の妻」という小説に仕立て上げ1966年（昭和41年）に上梓している。これがベストセラーとなって青洲の名が医学関係者以外の人達にも広く認知されるようになったことは、年輩の読者の方なら皆さんよく御存知のことであろう。しかし青洲の母と妻が通仙散の開発実験に関与していたという正式の資料は発見されていない模様である。

ガス麻酔の開発

19世紀半ば頃から、アメリカでは、旅の興行師が客にエーテルや笑気を嗅がせて興奮させ、その様子を笑いものにする娯楽（エーテルパーティ、笑気パーティ）が流行していた。

アメリカ南部のジョージア州の開業医ロング（Crawford Long, 1815～1878）はエーテルパーティで怪我をした客が痛みを訴えないことに気付く、これが手術時の無痛法に利用出来るのではないかと考えた。ロングは1842年3月30日、タオルに注いだエーテルを患者に嗅がせ、意識を失ったところで頸部腫瘍を切除するということが世界で最初に成功している。その後1846年までに計8人の患者でエーテル麻酔下の手術に成功したが、論文として発表したのは1849年になってからのことであった。

1844年ボストンの歯科医ウェルズ（Horace Welles, 1815～1848）は、笑気パーティでロングが2年前にエーテルパーティで経験していたのと同じ現象を見て、笑気を抜歯の時に使用することを思いついた。ウェルズが後輩の歯科医師モートン（William Morton, 1819～1868）にこのアイデアを話すと、モートンは自分が師事していたハーバード大学医学部の科学者ジャク

ソン（Charles Jackson, 1805～1880）にこのことを相談した。モートンとジャクソンはウェルズに対して公開実験を行うことを勧め、1845年1月にウェルズは公開実験を行ったが、笑気の量が少なかったためか実験は大失敗に終わり、ウェルズは笑い者になってしまった。ウェルズはその後、クロロフォルム麻酔の研究中に自分が中毒患者になってしまった。クロロフォルム吸入後意識がおかしくなり、女性に硫酸を掛けて逮捕され、1848年1月23日獄中で自殺した。

モートンはジャクソンの指導の下に、笑気をエーテルに変えて実験を重ね、公開実験に再度挑戦した。1846年10月16日、マサチューセッツ総合病院の講堂で行われた公開実験で、エーテル麻酔の絶大な無痛効果は世界に広く認識されるようになった。

ここで問題になったのが、全身麻酔の発明者は誰であるかという論争である。モートン、ジャクソン、ウェルズの3人が自分が最初の開発者であると言い争って話題となり、最初この争いにあまり乗り気でなかったロングも地元の上院議員の強い勧めで論争に加わるようになった。

最初にエーテル麻酔に成功したのはロングであるが、発表したのがモートンが公開実験に成功してから3年後のことであったため、モートンの名前が大きく取り上げられる結果となった。公開手術が行われた講堂は現在エーテルドームという名称でボストンのマサチューセッツ総合病院に残っている。ガス麻酔の開発に関するこれらのエピソードを考察する時、歴史に名を残すことについての運、不運、微妙さについていつも考えさせられる。

その後1847年にクロロホルム麻酔、1884年にコカインによる伝達麻酔、1898年に脊髄くも膜下麻酔（腰椎麻酔）が開発され、人類は手術という地獄の拷問からの脱出に成功したのである。

防腐法（Antisepsis）の開発

外傷が化膿することは古くから知られていたが、それが細菌感染に起因することは、19世紀半ばまで理解されていなかった。

ハンガリー出身でウィーン大学産科に勤務していたゼンメルワイス（Ignaz Semmelweis, 1818～1865）は、当時多くの産婦が命を落としていた産褥熱が、出産の介助に当たる医学生達の手指が不潔であることに起因すると考え、産婦の診察前に手を洗うことを励行させた。

細菌感染の概念がなかった1847年当時の考えとしては大変画期的なことであり、その結果産褥熱の発生率は大幅に低下した。しかしゼンメルワイスの業績は当時のウィーン大学の古い教授達には受け入れられず、言動が攻撃的であったことも禍して、1850年に彼はウィーン大学を追われてブダペストに帰ることになった。ゼンメルワイスは故郷の大学へ戻ったものの、その後精神に異常を来して1865年にブダペストの精神病院で逝去している。

ゼンメルワイスが正当に評価されるようになったのは、リスター（Joseph Lister, 1827～1912）が防腐法を提唱し始めた1870年代になってからのことであった。リスターはイギリスの外科医で、グラスゴー大学（1860年）、エディンバラ大学（1869年）、ロンドンのキングスカレッジ（1877年）で外科学教授を務めた人物である。彼は石炭酸（フェノール：4-hydroxy benzene）の防腐作用に着目、手術野に石炭酸を噴霧することで手術中の感染予防に成功した。1867年から1869年にかけて、彼は新しい防腐手術法 antiseptic method の論文を多数発表している。これによって手術中の防腐処置が手術の成績向上に大いに貢献することが広く認知されるようになった。

1880年代になって、ドイツのコッホ（Robert Koch, 1843～1910）等の活躍で細菌学が確立され、それに伴って煮沸、乾熱、蒸気滅菌などの滅菌法が取り入れられるようになり、石炭酸噴霧は過去のものとなった。しかし術中の滅菌という概念に関してはリスターの業績は大変大きいものである。

なにはともあれ、これら数々の物語に彩られた無痛法と無菌法の開発によって、外科治療は19世紀の終わり頃から更なる発展を遂げていくのである。

人体旅行記 乳房（その十六）

国立病院機構都城医療センター 吉住 秀之
院長

授乳器官としての「乳房」に次いで、美的器官としての「乳房」の歴史に注目してみましょう。コルセットで腰を細くして胸を持ち上げるファッションについては以前に触れましたが、乳房を大きく魅力的に見せる擬態装置としてのブラジャーも時代とともに進化しています。日本史上では、和江商事が京都室町でブラジャーの生産を開始したのが1950年、その2年後には大阪阪急百貨店で本邦初の下着ショーを開催し、「ワコール」という商標を世に出します。1953年には“八頭身プロポーション”の伊東絹子がミスユニバースで第三位になり、日本人女子の体が国際標準に近づいたとメディアで喧伝されました¹⁾。1960年代になると運動時にフィットして動きやすいブラジャーが作られるようになり、1964年の東京オリンピック開催でその商品開発に拍車がかかりました²⁾。

1980年代になるとブラジャーのワイヤーに形状記憶合金が使用されるようになります。形状記憶合金は開発当初その用途がないといわれていましたが、早い段階でブラジャーに実用化され、「科学が胸にフィットする」というキャッチコピーで約100万枚の売り上げを記録しています。1990年代にはアモルファスファイバーが使われることでワイヤーがさらに細く、しなやかになりバストシルエットを美しく成形するという考え（「寄せて上げる」）が強まります。それに呼応してか、成人男性誌に「巨乳」という言葉が登場するようになるのも80年代半ばからです。さらに快適さを追求したワイヤレスブラの出現を経て、両者のいいところ取りを狙ったサードウェーブブラが2016年に登場するなど、その進化には目を瞠るものがあります。

下着によって乳房を整形するという方法に対し、形成外科的に乳房を大きくするという豊胸術

は、1960年代に始まりました。第一世代のものは粘稠度の高いシリコンを使用しており、10年以上経過するとほぼ100%石灰化してしまうものでした。続いてより自然に近い柔らかさを求めた第二世代が登場しましたが、柔らかくなった分破裂するリスクが高く、シリコン断片が漏出してしまう短所がありました。その後第三、第四世代を経て第五世代と立て続けに進化が起きています³⁾。

シリコンによる豊胸術についての安全性には依然として問題があり⁴⁾、2011年12月23日にフランス保健省は同国のポリ・アンプラン・プロテーズ社製のシリコンを埋め込む豊胸術を受けた女性に対して、破裂するリスクが高いとして予防的にシリコンを摘出することを勧告し、その費用については健康保険の適用を認めると発表したという報道がありました。美しさの追求と維持には、様々なコストがかかるということですね。

- 1) 敗戦で落ち込んでいた日本人を勇気づけたニュースとして、教科書的には、1949年の湯川秀樹が日本人として初のノーベル賞（物理学賞）の受賞や1952年のヘルシンキオリンピックでレスリングの石井庄八が戦後初の日本人金メダリストに輝いたことが取り上げられますが、この入賞も十分意義があったと思われます。
- 2) ワコールは1964年にストレッチブラを発売し、その後まもなく東証一部上場を果たしています。オリンピックの経済効果がいかに大きかったかがわかります。売る側も買う側も胸躍る思いだったことでしょう。
- 3) Maxwell GP et al. (2014) The evolution of breast implants. *Plast Reconstr Surg*; 134: 12S-17S.
- 4) De Boer M et al. (2018) Breast implants and the risk of anaplastic large-cell lymphoma in the breast. *JAMA Oncol*; 4: 335-341.

◎ 監 査

日 時 5月9日（火）午後3時30分〈校長室〉

監査事項

1. 令和4年度公益目的支出計画実施報告
2. 令和4年度福岡県病院医療問題懇談会収入支出決算

◎ 令和5年度 第2回理事会

日 時 5月9日（火）午後4時〈会議室〉

議 題

1. 会長あいさつ
2. 協議事項
 - (1) 会員異動について
 - (2) 研修会について
 - (3) 新型コロナウイルス感染症対応について
 - (4) 地域医療構想について
 - (5) 令和4年度公益目的支出計画実施報告（案）について
 - (6) 第10回（令和5年度）定時総会について
 - (7) 福岡県感染症対策連携協議会の委員及び専門部会委員の推薦について
3. 会議等報告
 - ・ 福岡県新型コロナウイルス感染症対策協議会
4. 報告事項
 - (1) 私設病院協会
 - (2) 看護学校
 - (3) 医療関連協業組合
 - (4) 全日病、日慢協、日医法人協 他連絡
 - (5) その他

◎ 事務長会運営委員会

日 時 5月18日（木）午後3時〈会議室〉

議 題

1. 協議事項
 - (1) 新型コロナウイルス感染症が5類へ移行となった後の対策緩和への対応について
 - (2) コロナ禍における職員への福利厚生と今後について
 - (3) 4月以降の給与等の予定について
 - (4) 9月研修会企画案について
2. 報告事項
 - (1) 私設病院協会3月～4月の動き
 - (2) 私設病院協会研修会について

◎ 第10回定時総会

日 時 5月26日（金）午後3時50分

〈看護学校4階講義室〉

議 案 1件「令和4年度計算書類承認の件」

報告事項4件

- (1) 令和4年度事業報告
- (2) 令和4年度公益目的支出計画実施報告

(3) 令和5年度事業計画

(4) 令和5年度予算

◎ 看護部長会運営委員会

日 時 6月2日（金）午後3時〈会議室〉

議 題

1. 協議事項
 - (1) 11月研修会企画案について
 - (2) 働きやすい職場環境と離職防止について
2. 報告事項
 - (1) 私設病院協会4月～5月の動き
 - (2) 私設病院協会研修会について

◎ 広報委員会

日 時 6月13日（火）午後3時45分〈事務室〉

議 題 福私病ニュースの編集について

◎ 令和5年度 第3回理事会

日 時 6月13日（火）午後4時〈会議室〉

議 題

1. 会長あいさつ
2. 協議事項
 - (1) 会員異動について
 - (2) 研修会について
 - (3) 新型コロナウイルスに係る対応について
 - (4) 地域医療構想について
 - (5) 看護部長会運営委員会委員の変更について
 - (6) 職員の賞与について
 - (7) その他・第14回県民公開医療シンポジウムへの名義後援について
3. 会議等報告
 - (1) 令和5年度第1回医療審議会
 - (2) 令和5年度第1回医療審議会医療計画部会
 - (3) 令和5年度第1回福岡県医療対策協議会
 - (4) 福岡県感染症対策連携協議会
4. 報告事項
 - (1) 私設病院協会
 - (2) 看護学校
 - (3) 医療関連協業組合
 - (4) 全日病、日慢協、日医法人協 他連絡
 - (5) その他

◎ 研修会〈福岡県医療法人協会主催・参加数 57名〉

日 時 6月17日（土）午後4時

〈ホテルオークラ福岡 3階メイフェア〉

演 題 「新型コロナウイルス感染症対応を踏まえた今後の医療提供体制について」

講 師 厚生労働省医政局

地域医療課長 鷲見 学 氏

第85回 理事会報告

日 時 令和5年5月23日(火) 16:00~16:50

会 場 福岡県医師会館 研修室3
(福岡市博多区博多駅南2-9-30)

出席者(敬称略)

会 長 中村

副会長 一宮

理 事 平専務理事、岩永総務理事、伊東財務理事、
壁村企画理事、江頭、小嶋、津留、
富松、中房、平城、増本、松浦、山下、
横倉、渡邊 計17名(理事総数22名)

監 事 野村、原

議 長 岡嶋

副議長 樋口

顧 問 今泉、河野

I 行政等からの通知文書

平専務理事から、特に報告等を要するものはなかったとの説明があった。

II 公益目的事業関係

1 報告事項

(1) 各種委員会・研修会関係

【開催結果】

ア 第1回看護委員会

中房担当理事から、説明があった。

日 時 令和5年4月28日(金) 15:00~

場 所 福岡県中小企業振興センター
302会議室

議 題

1. 令和5年度研修計画について
2. 病院委員会委員の選任について
3. その他
4. 収益目的事業関係

イ 第1回栄養管理委員会

平城担当理事から、報告があった。

日 時 令和5年5月11日(木) 15:00~

場 所 九州中央病院 応接室

協議事項

1. 第70回栄養管理研修会の反省
2. 令和5年度研修計画について

【開催予定】

ア 第1回リハビリテーション委員会

岩永担当理事から、説明があった。

日 時 令和5年7月4日(火) 15:00~

場 所 アーバンオフィス 第1会議室
協議事項

1. 令和5年度第1回リハビリテーション研修会の開催について

III 収益目的事業関係

1 報告事項

(1) 各種委員会、研究会関係

【開催結果】

ア ほすびたる編集委員会

7月11日開催予定の編集委員会と併せて、
岡嶋編集長から説明があった。

日 時 令和5年5月9日(火) 17:45~

場 所 福岡県医師会館2F 事務局及び
WEB参加

議 題

1. 5月号の現況について
2. 7月号、9月号の編集計画について
3. 令和5年暑中見舞い広告について
4. 「看護の窓」寄稿依頼について

【開催予定】

ア ほすびたる編集委員会

日 時 令和5年7月11日(火) 17:45~

場 所 福岡県医師会館2F 事務局及び
WEB参加

議 題

1. 9月号の現況について
2. 11月号の編集計画について(第14回県民公開医療シンポジウム特集号)

(2) 第84回理事会の議事録(案)について

平専務理事から説明があり、承認された。

(3) 令和4年度臨時会員総会議事録(案)について

平専務理事から説明があり、承認された。

(4) 3月、4月収支報告について

伊東財務理事から、報告があった。

(5) 退会届について

・倉光病院(福岡市西区) 倉光 かすみ院長
経費削減のため

平専務理事から、説明があった。

(6) 会員の變更について

- ・独立行政法人国立病院機構 九州医療センター（福岡市中央区）
もりたしげき 森田茂樹 前病院長 → いわさきひろみ 岩崎浩己 病院長
 - ・医療法人小倉蒲生病院（北九州市小倉南区）
いだよしげ 井田能成 前院長 → のせ いわお 野瀬 巖 院長
 - ・医療法人社団高邦会 高木病院（大川市）
ほか すみ お 外 須美夫 前病院長 → つつひろゆき 筒井裕之 病院長
 - ・医療法人つくし病院（大野城市）
ひらたてるあき 平田輝昭 前院長 → のもとけんいち 野本健一 院長
 - ・久留米大学病院（久留米市）
しばなおと 志波直人 前病院長 → のむらまさとし 野村政壽 病院長
 - ・福岡市立病院機構 福岡市民病院（福岡市博多区）
くわのひろゆき 桑野博行 前院長 → ほりうちたかひこ 堀内孝彦 院長
- 平専務理事から、報告があった。

(7) 第14回県民公開医療シンポジウム開催計画概要
一宮運営委員長から、報告があった。

(8) 人事異動等に伴う福岡県地域医療構想調整会議等の委員の推薦について

久留米区域の志波久留米大学前病院長の退任に伴い、野村久留米大学新病院長を委員に推薦したとの報告が、平専務理事からあった。

(9) 福岡県医療対策協議会委員の推薦について

平専務理事から、一宮副会長を引き続き推薦したとの報告があった。

(10) 福岡県感染症対策連携協議会等委員（新設）
の委嘱について

福岡県新型コロナウイルス感染症対策協議会が廃止され、新たに設置された協議会の委員推薦依頼。平専務理事から、協議会委員に一宮副会長、医療専門部会委員に渡邊理事を推薦したとの報告があった。

(11) 第50回新採用薬剤師教育研修会への講師派遣
について

平専務理事から、昨年に続き山下理事を推薦したとの報告があった。

(12) 第1回「地域から中小病院を考える会」共催
名義使用について

平専務理事から、共催名義使用を承認したと

の報告があった。

2 協議事項

(1) 定時会員総会の日時及び場所並びに議事に付
すべき事項について

平専務理事から説明があり、次のとおり決定された。

1. 日 時 令和5年6月27日(火) 17:00～

2. 場 所 ソラリア西鉄ホテル福岡

3. 議事に付すべき事項

第1号議案 令和4度 福岡県病院協会事業報告について

第2号議案 令和4年度 福岡県病院協会収支決算について

第3号議案 理事の補充選任について

第4号議案 参与の委嘱について

(2) 令和4年度事業報告について

平専務理事から、説明があった。承認された。

(3) 令和4年度収支決算について

監査報告

伊東財務理事から収支決算について説明後、原監事から監査報告が行われた。承認された。

(4) 理事の補充選任に係る選挙日程及び選挙管理
委員長等の選任について

平専務理事から説明があり、次のとおり決定された。

〔日程〕

・立候補届又は推薦届の提出期限

令和6年6月9日(金)

・候補者一覧表を会員に送付

令和5年6月16日(金) 発送

・定時会員総会の開催（改選）

令和5年6月27日(火)

〔選挙管理委員長等〕

・選挙管理委員長 上野 道雄 顧問

・選挙管理委員 今泉暢登志 顧問

河野 正美 顧問

3 行事予定

平専務理事から、説明があった。

(1) 令和5年6月

ア 五役会

日 時 令和5年6月13日(火) 18:00～

場 所 福岡県医師会館 2F 事務局

イ 理事会・定時会員総会

日 時 令和5年6月27日(火) 15:00～

① 16:00～ 理事会

② 17:00～ 定時会員総会

(総会後に、懇親会を予定)

場 所 ソラリア西鉄ホテル福岡

(2) 令和5年7月

ア 第1回リハビリテーション委員会

日 時 令和5年7月4日(火) 15:00～

場 所 アーバンオフィス 第1会議室

イ ほすびたる編集委員会・五役会

日 時 令和5年7月11日(火)

場 所 福岡県医師会館 2F事務局 (ほすび
たる編集委員会はハイブリット)

4 最近の医療情勢について

一宮副会長から、3月27日開催の福岡県医療審議会について、地域医療支援病院を申請した4病院全て承認されたこと、ほか病院機能再編支援事業や研修医の定員、医師の働き方改革など議事に関し報告があった。次に、4月18日開催の福岡県新型コロナウイルス対策協議会について、5類移行から9月末までの病床確保、検査等の対応について県から口頭で説明があったとの報告があった。

続いて、津留理事から、7月8日(土)に開催される第1回「地域から中小病院を考える会」に関する告知があり、参加の依頼があった。

最後に、中村会長から、医療行政等について協議を行う場である外部委員会について、協議内容等を共有するため、直近の理事会で報告するよう要請があった。

第86回 理事会報告

日 時 令和5年6月27日(火) 16:30～16:55

会 場 ソラリア西鉄ホテル福岡 7F ルミナス
(福岡市中央区天神 2丁目 2-43)

出席者 (敬称略)

会 長 中村

副会長 一宮、岩崎

理 事 平専務理事、岩永総務理事、伊東財務理事、
壁村企画理事、江頭、於保、津留、
富松、中房、平城、松浦、山下、横倉、
渡邊 計17名 (理事総数22名)

監 事 野村、原

議 長 岡嶋

副議長 樋口

顧 問 今泉、河野

I 行政等からの通知文書

平専務理事から、特に報告等を要するものはなかったとの説明があった。

II 公益目的事業関係

1 報告事項

(1) 各種委員会・研修会関係

【開催予定】

ア 第1回リハビリテーション委員会

岩永担当理事から、説明があった。

日 時 令和5年7月4日(火) 15:00～

場 所 (株)アーバンネットオフィス
第1会議室

議 題

1. 令和5年度研修計画について

イ 第167回看護研修会

中房担当理事から、エの第169回看護研修会まで一括して説明があった。

日 時 令和5年7月27日(木) 9:20～16:30

場 所 ナースプラザ福岡 1F
「研修ホール」

共 催 公益社団法人福岡県看護協会

定 員 100名

テーマ 看護補助者の活用推進のための看護
管理者研修 (診療報酬加算対象)

研修内容

① 講義 (DVD視聴)

看護補助者の活用推進の背景／看護補助者の位置づけ／看護補助者との協働に関する基本的な考え方／業務実施体制の整備／看護職への教育体制の整備／看護補助者の労働環境の整備及び確保等／看護補助者の育成・研修・能力評価

② 演習

看護補助者と協働のための体制整備に関する課題に対する対策案の作成

ウ 第168回看護研修会

日 時 令和5年8月28日(月)10:00~15:30
8月29日(火)9:00~16:30

場 所 九州大学医学部百年講堂 大ホール

定 員 350名

テーマ 認知症(認知症看護実践力向上研修)
(診療報酬加算対象)

研修内容: 認知症の原因疾患と病態・治療/
入院中の認知症患者に対する看護
に必要なアセスメントと援助技術
／コミュニケーションの方法及び
療養環境の調整方法／行動・心理
症状(BPSD)／認知症に特有な倫
理的課題と意思決定支援／在宅に
向けた看護・介護連携、退院支援
など

エ 第169回看護研修会

日時等 令和5年9月22日(金)13:25~15:30

セミナー配信

令和5年9月23日(土)~28日(木)

オンデマンド配信

テーマ 「効果的な人材教育」

講 演 「Z世代の効果的な育成・受け取り
やすい指導 ～ Z世代を知り、大
きく育てる～」

講 師 有限会社A E メディカル
代表取締役 野津 浩嗣

(3) 5月収支報告について

伊東財務理事から、報告があった。

(4) 退会届について

社会保険大牟田吉野病院(大牟田市)

山崎 邦雄(病院長職務代理 今年度閉院予
定のため)

平専務理事から、説明があった。

(5) 会員の変更について

・独立行政法人国立病院機構九州医療センター
(福岡市中央区)

森田茂樹 前病院長 → 岩崎浩己 病院長

・医療法人小倉蒲生病院(北九州市小倉南区)

井田能成 前院長 → 野瀬 巖 院長

・医療法人社団高邦会 高木病院(大川市)

外 須美夫 前病院長 → 筒井裕之 病院長

・医療法人つくし病院(大野城市)

平田輝昭 前院長 → 野本健一 院長

・久留米大学病院(久留米市)

志波直人 前病院長 → 野村政壽 病院長

・福岡市立病院機構福岡市民病院

(福岡市博多区)

桑野博行 前院長 → 堀内孝彦 院長

平専務理事から、報告があった。

(6) 会長及び業務執行理事の活動状況について

平専務理事から、報告があった。

Ⅲ 収益事業、法人事務等関係

1 報告事項

(1) 各種委員会、研究会関係

【開催結果】

ア ほすびたる編集委員会

岡嶋編集長から、説明があった。

日 時 令和5年7月11日(火)17:45~

場 所 福岡県医師会館2F 事務局
及びWEB参加

議 題

1. 9月号の現況について
2. 11月号の編集計画について(第14回
県民公開医療シンポジウム特集号)

(2) 第85回理事会議事録(案)について

中村会長、野村及び原監事の下承済。

平専務理事から説明があり、承認された。

(7) 専門研修プログラム調整委員会等の委員変更
及び推薦について

平専務理事から、五役会で検討した結果、小
児科を除く4名は継続とし、小児科につい
ては、新たに福岡市立病院の楠原浩一院長を推
薦したとの報告があった。

(8) 第7回日本ヘルスケアダイバーシティ学会開
催の名義後援のお願い

平専務理事から。五役会で検討を行い、学会
の趣旨や内容に問題がないため、名義後援を
承認することとしたの報告があった。

2 協議事項

(1) 理事の補充選任について

平専務理事から、別紙「資料8」のとおり立
候補の届出があり、これを定時会員総会の第

3号議案として提出したい旨の説明があった。承認された。

(2) 参与の委嘱について

平専務理事から、別紙「資料9」のとおり各団体から推薦があり、これを定時会員総会の第4号議案として提出したい旨の説明があった。

3 行事予定

平専務理事から、説明があった。

(1) 令和5年7月

ア 第1回リハビリテーション委員会

日 時 令和5年7月4日(火) 15:00～

場 所 (株)アーバンネットオフィス
第1会議室

イ ほすびたる編集委員会・五役会

日 時 令和5年7月11日(火)

① 17:45～ほすびたる編集委員会

② 18:00～五役会

場 所 福岡県医師会館2F事務局(ほすびたる編集委員会はハイブリット)

ウ 第167回看護研修会

日 時 令和5年7月27日(木) 9:20～16:30

場 所 ナースプラザ福岡1F
「研修ホール」

(2) 令和5年8月

ア 五役会・納涼会

日 時 令和5年8月22日(火) 18:00～

① 18:00～五役会

② 18:30～納涼会

場 所 割烹よし田(福岡市博多区店屋町)

イ 第168回看護研修会

日 時 令和5年8月28日(月) 10:00～15:30

8月29日(火) 9:00～16:30

場 所 九州大学医学部百年講堂 大ホール

(3) 令和5年9月

ア 第14回県民公開医療シンポジウム

日 時 令和5年9月2日(土) 14:00～16:00

場 所 アクロス福岡 国際会議場

イ ほすびたる編集委員会・五役会

日 時 令和5年9月12日(火)

① 17:45～ほすびたる編集委員会

② 18:00～五役会

場 所 福岡県医師会館2F事務局(ほすびたる編集委員会はハイブリット)

ウ 第169回看護研修会

日時等 令和5年9月22日(金) 13:25～15:30

セミナー配信

令和5年9月23日(土)～28日(木)

オンデマンド配信

エ 第86回理事会

日 時 令和5年9月26日(火) 16:00～

場 所 未定

場所は、福岡県中手企業振興センターに決まる。

4 最近の医療情勢について(外部委員会報告等)

一宮副会長から、5月24日開催の福岡県医療審議会において、県から第8次医療計画の素案の説明があり、看護助手の確保対策や分娩を行う産科医師の確保対策を盛り込むことが必要など委員から意見が出されたとの報告があった。

また、伊東理事から、5月26日開催の同審議会計画部会について、臨床研修医が募集定員に満たない理由や、北九州の定員が福岡地区に比べて少ない理由等を問う質問や意見が出たこと、また提起された問題は今後協議を行うと県から説明があったとの報告があった。

さらに、一宮副会長から、医師はこれまで主たる従事先しかカウントされなかったが、これからは主たる従事先が8割、従たる従事先が2割に分けられるため、偏在指標が変わってくる可能性があるとの情報提供がなされた。

暑中お見舞い 申し上げます

2023（令和5）年7月



九州大学病院
KYUSHU UNIVERSITY HOSPITAL

病院長 中村雅史

〒812-8582
福岡市東区馬出3丁目1番1号
電話 (092)641-1151 FAX (092)642-5008
URL <http://www.hosp.kyushu-u.ac.jp>



福岡大学病院
Fukuoka University Hospital

病院長 岩崎昭憲

〒814-0180
福岡市城南区七隈七丁目45番1号
電話 (092)801-1011 FAX (092)862-8200
URL <http://www.hop.fukuoka-u.ac.jp>



久留米大学病院
KURUME UNIVERSITY HOSPITAL

病院長 野村政壽

〒830-0011
久留米市旭町67番地
電話 (0942)35-3311 FAX (0942)32-6278
URL <https://www.hosp.kurume-u.ac.jp>
E-mail kanrika@kurume-u.ac.jp



産業医科大学病院
Hospital of the University of Occupational and Environmental Health, Japan

病院長 田中文啓

〒807-8556
北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号
電話 (093)603-1611(代) FAX (093)691-8892
URL <https://www.uoeh-u.ac.jp/>
E-mail byokan@mbbox.pub.uoeh-u.ac.jp

医療法人 **原三信病院**
Harasanshin Hospital

理事長 **平 祐 二**
院長 **原 直 彦**

〒 812-0033
福岡市博多区大博町 1 番 8 号
電話 (092)291-3434 FAX (092)291-3424
URL <https://www.harasanshin.or.jp/>

カマチグループ 社会医療法人財団 池友会
 福岡和白病院

理事長 **富 永 隆 治**
院長

〒 811-0213
福岡市東区和白丘 2 - 2 - 75
電話 (092)608-0001 FAX (092)607-3051
URL <https://www.f-wajirohp.jp>

 宗像医師会病院
MUNAKATA MEDICAL ASSOCIATION HOSPITAL

院長 **伊 東 裕 幸**

〒 811-3431
福岡県宗像市田熊五丁目 5 番 3 号
電話 (0940)37-1188 FAX (0940)37-0016
URL <http://www.mmah.jp>

 地方独立行政法人福岡市立病院機構
福岡市立こども病院
Fukuoka Children's Hospital

院長 **楠 原 浩 一**

〒 813-0017
福岡市東区香椎照葉 5 丁目 1 番 1 号
電話 (092)682-7000 FAX (092)682-7300
URL <https://childhp.fcho.jp>

 社会福祉法人 豊陽 済生会支部
福岡県済生会福岡総合病院

院長 **松 浦 弘**

〒 810-0001
福岡市中央区天神一丁目三番四六号
電話 (092)771-8151 FAX (092)716-0185
URL <https://www.saiseikai-hp.chuo.fukuoka.jp>
E-mail byoin@saiseikai-hp.chuo.fukuoka.jp

 医療法人 成康会
堤小倉病院

院長 **堤 康 博**

〒 802-0835
北九州市小倉南区大字堀越 358 番地
電話 (093)962-1950 FAX (093)963-1075
URL <https://tsutsumikokura.com>
E-mail horiko@lime.ocn.ne.jp



国家公務員共済組合連合会

新小倉病院

病院長 塚 本 浩

〒 803-8505
北九州市小倉北区金田 1 丁目 3 番 1 号
電話 (093)571-1031 FAX (093)591-0553
URL <https://shin-kokura.kkr.or.jp>
E-mail kk-shinkokura@shin-kokura.gr.jp



医療法人社団 久英会

高良台リハビリテーション病院

理事長 中 尾 一 久
院 長 永 田 剛

〒 830-0054
久留米市藤光町 965 - 2
電話 (0942)51-3838 FAX (0942)51-3535
URL <https://www.kyueikai.jp>
E-mail kouradai-web@kyueikai.jp



地方独立行政法人 福岡市立病院機構

福岡市民病院

院 長 堀 内 孝 彦

〒 812-0046
福岡市博多区吉塚本町 13 番 1 号
電話 (092)632-1111 FAX (092)632-0900
URL <https://www.shiminhp.fcho.jp>
E-mail shiminbyoin@fcho.jp

医療法人社団福光会

福田眼科病院

理事長 福 田 恭 江
病院長 江 島 哲 至

〒 814-0013
福岡市早良区藤崎 1 丁目 24 番 1 号
電話 (092)841-2345 FAX (092)841-2649
E-mail fukudaganka@nifty.com



福岡県立精神医療センター

太宰府病院

Fukuoka Prefectural Psychiatric Center Dazaifu Hosupital

院 長 小 嶋 享 二

〒 818-0125
福岡県太宰府市五条 3 丁目 8 番 1 号
電話 (092)922-3137 FAX (092)924-4060
URL <https://www.dazaifu-hsp.jp/>
E-mail info@dazaifu-hsp.jp



田川市立病院

田 川 市 鴻 江 俊 治
病院事業管理者
病 院 長 松 隈 哲 人

〒 825-8567
福岡県田川市大字楠 1700 番地 2
電話 (0947)44-2100 FAX (0947)45-0715
URL <http://hospital.city.tagawa.fukuoka.jp>
E-mail shiritsubyouin@lg.city.tagawa.fukuoka.jp

ih 飯塚病院
innovate and evolve

院長 増本 陽 秀

〒 820-8505
飯塚市芳雄町 3 番 83 号
電話 (0948)22-3800 FAX (0948)29-5744
URL <http://aih-net.com>

地域医療支援病院 地域がん診療連携拠点病院



一般社団法人 福岡県社会保険医療協会
社会保険 **田川病院**

院長 黒 松 肇

〒 826-0023
福岡県田川市上本町 10 番 18 号
電話 (0947)44-0460 FAX (0947)45-6540
URL <https://www.s-tagawa-hp-.tagawa.fukuoka.jp>



原土井病院
HARADOI HOSPITAL

理事長 原 寛
院長 野村 秀 幸

〒 813-8588
福岡市東区青葉 6 丁目 40 番 8 号
電話 (092)691-3881 FAX (092)691-1059
URL <https://www.haradoi-hospital.com>



国家公務員共済組合連合会
浜の町病院
HAMANOMACHI HOSPITAL

病院長 谷 口 修 一

〒 810-8539
福岡市中央区長浜 3 丁目 3 番 1 号
電話 (092)721-0831 FAX (092)714-3262
URL <https://hamanomachi.kkr.or.jp>
E-mail info@hamanomachi.jp



医療法人 誠心会

井上病院

理事長 井 上 健
院長

〒 819-1104
福岡県糸島市波多江 699 番地 1
電話 (092)322-3437 FAX (092)322-5806
URL <https://www.sih.or.jp>
E-mail inouehospital@sih.or.jp



福岡ハートネット病院
FUKUOKA HEARTNET HOSPITAL

院長 樋 口 雅 則

〒 819-0002
福岡市西区姪の浜二丁目 2 番 50 号
電話 (092)881-0536 FAX (092)883-8761
URL <https://heartnet-hp.jp>



理事長 西野 豊彦
院長

〒 820-0206
福岡県嘉麻市鴨生 532 番地
電話 (0948)42-1114 FAX (0948)42-4790
E-mail nishino1114@miracle.ocn.ne.jp



独立行政法人 国立病院機構
福岡東医療センター

院長 中根 博

〒 811-3195
福岡県古賀市千鳥 1 丁目 1 番 1 号
電話 (092)943-2331 FAX (092)943-8775
URL <https://fukuokae.hosp.go.jp>



救急病院 指定自立支援医療機関 (更生医療)

医療法人 シーエムエス

杉循環器科内科病院

理事長 杉 健三
院長 大内田 昌直

〒 837-0916
大牟田市大字田隈 950 - 1
電話 (0944)56-1119 FAX (0944)56-2077
URL <http://www.sugi-hosp.jp>



創立 68 周年 (1955 年創立)
救急病院 開放型病院 臨床研修病院指定

医療法人 西福岡病院
日本医療機能評価機構認定病院 (3rdG:Ver1.1)

理事長 安藤 文英
院長 渡辺 憲太郎

〒 819-8555 福岡市西区生の松原 3 丁目 18 番 8 号
TEL.092-881-1331 FAX.092-881-1333
URL <http://www.nishifukuhp.or.jp>
Mail jim@nishifukuhp.or.jp



社会医療法人 喜悦会
那珂川病院

理事長 下川 敏弘
院長 吉村 寛志

〒 811-1345
福岡市南区向新町 2 丁目 17 - 17
電話 (092)565-3531 FAX (092)566-6460
URL <http://www.nakagawa-hp.com>
E-mail mail@nakagawa-hp.com



医療法人 佐田厚生会
佐田病院
SADA HOSPITAL

理事長 佐田 正之
院長 藤原 将巳

〒 810-0004
福岡市中央区渡辺通 2 丁目 4 番 28 号
電話 (092)781-6381 FAX (092)724-9411
URL <https://www.sada.or.jp>
E-mail info@sada.or.jp



社会福祉法人 福岡県済生会支部
福岡県済生会二日市病院

院長 壁 村 哲 平

〒 818-8516
福岡県筑紫野市湯町三丁目 13 番 1 号
電話 (092) 923-1551 FAX (092) 924-5210
URL <http://www.saiseikai-futsukaichi.org>



社会福祉法人
バプテスト心身障害児(者)を守る会
久山療育園重症児者医療療育センター

理事長 宮 崎 信 義
センター長 岩 永 知 秋

〒 811-2501
福岡県糟屋郡久山町
大字久原 1869
電話 (092) 976-2281
FAX (092) 976-2172



公立学校共済組合
九州中央病院
Kyushu Central Hospital

病院長 前 原 喜 彦

〒 815-8588
福岡市南区塩原三丁目 23 番 1 号
電話 (092) 541-4936 FAX (092) 541-4540
URL <https://www.kyuchu.jp>



嘉麻赤十字病院

日本赤十字社

病院長 小 野 洋

〒 821-0012
福岡県嘉麻市上山田 1237 番地
電話 (0948) 52-0861 FAX (0948) 52-1927
URL <https://www.kama-jrc.jp>
E-mail info@kama.jrc.or.jp



社会医療法人
弘恵会 ヨコクラ病院

理事長 横 倉 義 武
院長 横 倉 義 典

〒 839-0215
福岡県みやま市高田町濃施 480 番地 2
電話 (0944) 22-5811 FAX (0944) 22-2045
URL <https://yokokura-hp.or.jp>



社会医療法人 水光会
宗像水光会総合病院
MUNAKATA SUIKOKAI GENERAL HOSPITAL

理事長 津 留 英 智
院長 田 山 慶一郎

〒 811-3298
福岡県福津市日蒔野 5 丁目 7 番地の 1
電話 (0940) 34-3111 FAX (0940) 43-5981
URL <http://www.suikokai.or.jp>



社会福祉法人 福岡県済生会支部
福岡県済生会八幡総合病院

院長 古 森 公 浩

〒 805-0050
北九州市八幡東区春の町 5 丁目 9 番 27 号
電話 (093)662-5211 FAX (093)671-3823
URL <http://www.yahata.saiseikai.or.jp>



医療法人社団 江頭会

さくら病院

理事長 江 頭 啓 介
院長 江 頭 省 吾

〒 814-0143
福岡市城南区南片江 6 丁目 2 番 32 号
電話 (092)864-1212 FAX (092)865-4570
URL <http://www.sakurahp.or.jp/>



福岡大学西新病院
Fukuoka University Nishijin Hospital

病院長 三 浦 伸一郎

〒 814-8522
福岡市早良区祖原 15 番 7 号
電話 (092)831-1211 FAX (092)831-3398
URL <https://www.nishijin.fukuoka-u.ac.jp>



福岡赤十字病院

日本赤十字社

院長 中 房 祐 司

〒815-8555
福岡市南区大楠3 丁目1 番1 号
電話(0570)03-1211 FAX(092)522-3066
URL <https://www.fukuoka-med.jrc.or.jp/>



社会医療法人 雪の聖母会

理事長 井手 義雄

聖マリア病院

病院長 谷口 雅彦

〒 830-8543 福岡県久留米市津福本町 422 番地
電話 (0942)35-3322 FAX (0942)34-3115
URL <https://www.st-mary-med.or.jp/top.php>

聖マリアヘルスケアセンター

病院長 井手 睦

〒 830-0047 福岡県久留米市津福本町 448 番 5
電話 (0942)35-5522 FAX (0942)34-3306
URL <https://www.st-mary-health.jp>



公立八女総合病院

Yame General Hospital

院長 平 城 守

〒 834-0034
福岡県八女市高塚 540 番地 2
電話(0943) 23-4131 / FAX(0943) 22-3185
URL <https://www.hosp-yame.jp>



医療法人徳洲会

福岡徳洲会病院

Fukuoka Tokushukai Hospital

院長 **乗 富 智 明**

〒 816-0864

福岡県春日市須玖北 4 丁目 5 番地

電話 (092)573-6622 FAX (092)573-1733

URL <https://www.f-toku.jp>

E-mail ftokushu@csf.ne.jp



一般社団法人 福岡県社会保険医療協会

な か ば る
社会保険 仲原病院

Social Insurance Nakabaru Hospital

理事長 **瓦 林 達比古**
病院長 **大 神 吉 光**

〒 811-2233

福岡県糟屋郡志免町別府北 2 丁目 12 番 1 号

電話 (092)621-2802 FAX (092)623-2247

URL <http://www.nakabaru-hp.jp/>

E-mail nhp-contact@nakabaru-hp.jp

掲載は受付順にさせていただきました。





医療関連
サービスマーク認定

太陽セランドグループ会社

〓 太陽セランドホールディングス株式会社 〓 太陽セランド株式会社 〓 太陽シルバーサービス株式会社 〓 ジャパンエアマット株式会社 〓 株式会社北九州シーアイシー研究所

一番大切な思いやり…
「安心・安全・清潔」



太陽セランドグループ

太陽セランドホールディングス株式会社
〒812-0044 福岡市博多区千代 1-1-5
TEL 092-641-2578 FAX 092-641-5778

太陽セランド株式会社
〒826-0042 福岡県田川市大字川宮 1200
TEL 0947-44-1847 FAX 0947-44-5805

代表取締役 社長 **中島 健介**

お問い合わせ TEL 0947-44-1847 Mail info@taiyoseland.co.jp Web <http://www.taiyoseland.co.jp>

ほすびたる 767 号をお届けします。

今号の新人物には、久留米大学病院院長、福岡県病院協会副会長に就任されました野村政壽先生、そして国立病院機構九州医療センター院長に就任されました岩崎浩己先生のお二人に、ごあいさつをいただきました。福岡の医療界に、新しい息吹を吹き込んで下さることでしょう。また、お忙しい中、貴重な原稿をお寄せいただきました著者の皆様に、心より御礼を申し上げます。

さて、社会的な規制が解除されて来たとはいえ、医療関係者の皆様には、引き続き、不要な外出を控えておられる方も多いことと思います。私を含め、コロナ流行前に比べて、自宅でテレビを見る機会が増えた方もおられことでしょう。私が欠かさず、楽しみに観ているテレビドラマの一つに、『名探偵ポワロ』があります。イギリスのテレビ局がシリーズで制作し、全世界で 10 億人が観たといわれる大人気ドラマです。原作は、「ミステリーの女王」、アガサ・クリスティ。英国の美しい風景をバック

に、ポワロが灰色の脳細胞を駆使して、難事件を次々と解決していきます。このテレビドラマの大きな魅力のひとつは、ポワロを演じる英国の俳優、デビッド・スーシェにあります。このベルギー人の老探偵を演ずるに、スーシェは極め付きの俳優でしょう。彼は、自身が演じるポワロへの強い思いから、『ポワロと私：デビッド・スーシェ自伝』という書籍を出版しています。さらに、日本で放送されているこのドラマのもう一つの魅力、それは、声優、熊倉一雄氏による吹き替えにあります。まさに、この老探偵の魅力や、洒落たセリフを余すことなく表現してくれています。『名探偵ポワロ』は、現在、NHK BS3 で、水曜日夜に放送されています。興味のある方は、ご覧になってみてください。ただし、途中でコマーシャルがありませんので、トイレを済ませてから、どうぞ。ちょっと外すと、大事な手がかりを見落とす可能性があります。おっと、これは若い皆様にはいらぬ心配でした。

(岡嶋泰一郎 記)

ほすびたる

第 767 号

令和 5 年 7 月 20 日発行

発行 ◎ (公社) 福岡県病院協会

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南 2 丁目 9 番 30 号

福岡県メディカルセンタービル 2F

TEL092-436-2312 / FAX092-436-2313

E-mail fukuoka-kenbyou@globe.ocn.ne.jp

URL <http://www.f-kenbyou.jp>

編集・発行人 ◎ (公社) 福岡県病院協会

制作 ◎ (株) 梓書院

〒812-0044 福岡市博多区千代 3-2-1

麻生ハウス 3F

TEL092-643-7075 / FAX092-643-7095

E-mail : mail@azusashoin.com

編集主幹…中村 雅史

編集委員長…岡嶋泰一郎

編集副委員長…一宮 仁

編集委員…平 祐二・岩永 知秋

壁村 哲平・伊東 裕幸

横倉 義典・大嶋 由紀

第14回 県民公開医療シンポジウム

めざそう!“元気で長生き”

～健康長寿のヒント～

2023
9.2
SAT

14:00～16:00

定員：300名

入場無料



Program

アクロス福岡 国際会議場

福岡市中央区天神1-1-1 TEL:092-725-9113

1.開会のことば

公益社団法人福岡県病院協会 会長
九州大学病院 病院長

中村 雅史

2.シンポジウム

座長

国家公務員共済組合連合会浜の町病院 病院長
国家公務員共済組合連合会浜の町病院 副院長

谷口 修一
大城戸政行



講演1

「健康寿命延伸とwindow-骨粗鬆症と関節疾患-」

国家公務員共済組合連合会浜の町病院
診療部次長

馬渡 太郎 先生



講演2

「脳卒中の予防と治療-福岡県の循環器病対策推進計画とともに-」

独立行政法人国立病院機構九州医療センター
副院長

岡田 靖 先生



講演3

「元気で長生き、がんに負けないために今できること “がん予防とがん検診”」

公益財団法人ふくおか公衆衛生推進機構 常務理事
ガーデンシティ健診プラザ センター長

松浦 隆志 先生

質疑応答

3.閉会のことば

公益社団法人福岡県病院協会 副会長
福岡大学病院 病院長

岩崎 昭憲

主催 公益社団法人福岡県病院協会

後援 福岡県、福岡市、(公社)福岡県医師会、(公社)福岡県薬剤師会、(公社)福岡県看護協会、(公社)福岡県栄養士会、(公社)福岡県診療放射線技師会、(公社)福岡県理学療法士会、(公社)福岡県作業療法協会、(一社)福岡県言語聴覚士会、(公社)福岡県歯科医師会、(一社)福岡県臨床衛生検査技師会、(一社)福岡県私設病院協会、(一社)福岡県精神科病院協会、(一社)福岡県医療法人協会、(一社)福岡県病院薬剤師会、日本糖尿病協会福岡県支部、(一社)福岡市医師会、(一社)福岡市歯科医師会、(一社)筑紫医師会、(一社)粕屋医師会、(一社)糸島医師会、(一社)宗像医師会、西日本新聞社、毎日新聞社、朝日新聞社、NHK福岡放送局、(株)福岡放送、RKB毎日放送、(株)テレビ西日本、九州朝日放送、テレQ（順不同）

・ご来場の際は、マスクの着用をお願いします。・発熱や咳など、体調がすぐれない場合は参加をお控えください。・新型コロナウイルス感染状況により、中止となる場合があります。

主 催 公益社団法人福岡県病院協会 TEL 092-436-2312 URL <http://www.f-kenbyou.jp>

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号福岡県メディカルセンタービル 2階